

競技上の諸注意

- 1 競技は(公財)日本ソフトテニス連盟「ソフトテニスハンドブック」及び大会要項・大会出場規定に従って行う。マッチは7ゲームとする。天候などの状況により5ゲームとする場合もある。(各都県の委員長会議で決定する。)
- 2 コート割及び進行は別表のとおりとするが、本部の判断で変更をすることがあるので、放送には十分注意する。
- 3 規定のゼッケンを選手は背中に、監督及びコーチは左胸につける。
- 4 選手及び監督(コーチ)は、アンパイヤーの指示に従う。選手はマッチの開始から終了まで連続的にプレーする。
- 5 選手及び監督(コーチ)は、お互いにマナーを尊重し、過度のかけ声または相手を不快にする発声をしない。
- 6 審判のコールの後からポイントが決定するまでの間、発声及び拍手等による応援は禁止する。
- 7 マッチ中のコートにおいて
 - (1) 個人戦は監督またはコーチ1名のベンチ入りを認める。ただし、2ペア以上出場している学校はそれぞれのペアに対し1名の監督またはコーチのベンチ入りを認める。(教員または外部指導者による追加監督の許可を得ている場合) また、追加監督はマッチごとに交代することは認める。
 - (2) 団体戦は監督またはコーチ1名のベンチ入りを認める。
 - (3) 番号の若い方の選手(チーム)は、中央通路側のベンチとする。
 - (4) マッチ中の助言は、チェンジサイズ及びファイナルゲームに入る前に所定のベンチで行うことができる。ただし、前のゲーム終了から1分以内に次のゲームを開始する態勢に入るものとする。また、身体上の手当についても選手、監督またはコーチともに認める。
- 8 異議の申し立ては、選手、監督またはコーチともにできない。ただし、質問する事を妨げるものではない。
- 9 使用球は、公認球を使用する。
- 10 個人戦について
 - (1) トスは各マッチごとに、コート上で行う。
 - (2) マッチ開始前の呼び出しは原則として行わないので進行には十分注意する。第1マッチについては、8時20分までに各コート内のコート主任側ベンチ前に集合する。それ以降は前のマッチの開始後、指定の選手招集所に集合する。前のマッチの開始後5分経過しても集合しない場合は、集合の通告(放送)を行う。通告後5分経過で警告1回、10分経過で警告2回とする。
 - (3) 監督のベンチ入りは1マッチ1回のみとしてマッチ途中でベンチから出た場合、再びベンチに戻ることは認めない。
 - (4) コートへの入場時に、監督が他のコートにおいて同校のペアがマッチ中のため入場できないときは、マッチ途中からのベンチ入りを認める。
 - (5) 監督はコート内では指定されたベンチに着席し、マッチ中の監督交代は認められない。
 - (6) 選手は監督の助言を受けるために、他のコートに移動してはいけない。
- 11 団体戦について
 - (1) 3ペアの点取り法による対抗戦とし、2回戦以降は2点先取とする。勝敗がついた時点で省略ゲームとする。
 - (2) 1回戦のオーダー提出は、8時00分までに監督がオーダー提出所に提出する。それ以降は対戦相手が決まり次第、速やかにオーダー提出所に提出する。
 - (3) マッチ開始前の呼び出しは原則として行わないので進行には十分注意する。なお、第1試合については8時20分までに各コート内のコート主任側ベンチ前に集合する。それ以降はオーダーの提出後、速やかに選手招集所に集合する。集合しない場合は、集合の通告(放送)を行う。通告後5分経過で警告1回、10分経過で警告2回とする。
 - (4) トスは各マッチごとに、コート上で行う。
 - (5) 大会運営上、2面展開等で行うこともある。この時も、監督またはコーチは1名とする。
 - (6) 選手及び監督またはコーチは、コート内では指定されたベンチに着席する。ただし、次の試合の選手がウォーミングアップのためにベンチの横で身体を動かさず程度は認めるが、ウォーミングアップに参加する選手は、一斉応援に参加しない。また、器具を持ち込んでのウォーミングアップはしない。
- 12 監督会議後の選手変更は、個人戦エントリーにおいて監督会議後の急病・けがの場合の1名に限り、当日の8時00分までに書面で各都県委員長が競技委員長に提出し、承認を得る。